

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 29 日現在

機関番号：35401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25381225

研究課題名(和文)「音楽する耳」を育むプログラム - 文化施設と学校と 音楽家の耳 トレーニングの連携

研究課題名(英文) A Program for Developing "The Musical Ear" - Collaborative Training for Culture Centers, Schools, and "The Musician's Ear" (training system)

研究代表者

岡田 陽子 (Okada, Yoko)

エリザベト音楽大学・音楽学部・准教授

研究者番号：70573103

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：小学校で音楽鑑賞の授業を実施し、音楽への興味・関心を促すような音楽の聴き方についての研究を行った。音楽を注意深く聴くために、音楽を形作っている様々な音楽の要素(リズム、旋律等)を「聴く視点」として提供した。

児童を対象としたアンケート結果から、児童たちは、「聴く視点」をもとに音楽を聴いていたことがわかった。同時に、明確に「聴く視点」を捉えるためには、音楽の周期を感じ「拍子」を捉えることが重要であり、「模倣する」「歌う」などの活動を伴うことが有効であることがわかった。音楽の仕組みや音楽全体を捉え、能動的に聴いている例も見られた。

研究成果の概要(英文)：A study has recently been done on music appreciation courses at elementary schools. The purpose of the study was to explore different ways to listen to music, promoting increased interest and awareness. In order to understand and appreciate listening to music, the course provided a "listening perspective" for students by examining the different components of music (rhythm, melody, etc.).

Results of the survey targeted children showing that children use "listening perspectives" as a standard for listening to music. At the same time, for children to clearly grasp these "listening perspectives," it has been found important for children to try and capture the tempo of music (the music's cycle), as well as doing music activities such as imitating, singing, and so on. Many examples were observed of children actively listening to music and grasping the structure and the entirety of music itself.

研究分野：音楽の聴取

キーワード：音楽鑑賞 意識して聴く 拍子感を養う 総合的な音楽教育 音楽家の耳 トレーニング

1. 研究開始当初の背景

(1) 文化施設でのコンサートに聴衆が少なく、中でも特に子どもが少ないと感じたため、音楽に関心を持つ子どもを育成する必要性を感じた。

(2) 子どもたちの音楽への関心を高めていくために、音楽鑑賞の機会を提供するとともに、音楽への興味を深めていくような音楽鑑賞プログラムを開発する必要性を感じた。

(3) 文化施設でのコンサートを、学校現場にも周知させるため、文化施設と学校との連携体制を作る必要性を感じた。

2. 研究の目的

(1) 子どもたちの感性が豊かに育ち、自然に音楽への興味が深まり、生涯にわたって音楽を楽しむ人が増加するような環境を作ること。

(2) 子どもたちの音楽への関心が高まり、音楽への興味を深めていくことが可能となるような音楽鑑賞プログラムを、文化施設と教育現場と連携して開発すること。

3. 研究の方法

(1) 現状調査

文化施設(しまなみ交流館)で行われているコンサートにおいて、聴衆を対象にアンケート調査を実施した。

(2) 音楽作品の教材化

文化施設で演奏される作品と、教科書に掲載されている作品の楽曲分析を行い、教材化のための研究を行った。

(3) 教授法の開発

音楽を意識して「聴く」ための教授法の開発を行った。その際は、音楽の持つ様々な表情や、音楽の仕組みなどを、「耳」から感覚的に捉えることが可能となるような「聴き方」に焦点を当てた。

開発にあたり、平成14年にエリザベト音楽大学で開発した音楽基礎教育システムである「音楽家の耳 トレーニングシステム」を導入した。特に、音楽を耳から捉えるトレーニングとして、「拍子をたたく」、音楽を聴いて瞬時に「真似する」、「歌う」などの音楽活動について研究を行った。

(4) 開発したプログラムの実践

実際に尾道市立向東小学校において、音楽の鑑賞授業を実践し、授業終了後は児童を対象にアンケート調査を行い、その結果をもとに開発したプログラムの有効性について検証した。

鑑賞授業を実践する際には、文化施設で行われるコンサートの紹介も併せて行った。

鑑賞授業は、小学校だけではなく、尾道市

立向東幼稚園、石川県立金沢辰巳丘高等学校でも行った。

(5) コンサートの企画

児童を対象とするコンサートを企画・主催し、一般にも公開した。コンサート終了後、児童や一般の聴衆を対象にアンケート調査を行った。

(6) 現場の教員との研修会

現場の教員との交流を図り、音楽鑑賞プログラムの内容や教授法についての研究を進めた。

(7) 国内外における調査

文化施設で行われるクラシックコンサートの実施数が減っている中、他の文化施設や地域についての現状を知るために、軽井沢国際音楽祭(平成26年8月20日(水)~22日(金))、エディンバラ国際芸術祭(平成26年8月13日(水)~22日(金))など国内外のコンサートや音楽祭・芸術祭等にも参加し、コンサートのプログラムについての調査等を行った。

4. 研究成果

(1) 現状調査

平成25年度に、しまなみ交流館で行われていたギャラリーコンサート4回(7月、8月、9月、10月)で、来場者を対象に行った。

アンケート結果からは、来場者の76%は旧尾道市を占め、島からの来場者は少ないことがわかった。また、来場者の年齢構成は、60代が最も多く、40~80代で85%を占め、10代、20代が少ないこと等もわかった。

(2) 音楽作品の教材化

授業実施にあたり、教科書等の鑑賞教材の楽曲分析を行い、教授法の運用と教材化のための研究を行った。それらを一覧表にまとめた。作品は次の通り。

J.パッヘルベル:

3声のカノンとジグ(カノンの部分のみ)

L.v.ベートーヴェン:

交響曲 第5番 八短調 Op.67《運命》
第1楽章

W.A.モーツァルト:

ホルン協奏曲 第1番 二長調 K412
第2楽章

P.I.チャイコフスキー:

バレエ「白鳥の湖」Op.20 第3幕
No.21 スペインの踊り

F.シューベルト:

ピアノ五重奏曲「ます」 第4楽章

A. プライヤー：
スコットランドのつりがね草
(変奏曲のテーマのみ)

W.A. モーツァルト：
フランスの歌「ああ、お母さんに聞いて」
による 12 の変奏曲 八長調
(キラキラ星変奏曲) K265

(3) 教授法の開発

音楽を意識して「聴く」ための教授法を開発した。大まかな流れは次の通り。

・「音楽家の耳 トレーニング」システムを導入し、音楽を聴いて「拍子をたたく」トレーニングを、毎回授業の最初に行う。

・「聴く視点」を提供する。

・「聴く視点」を捉えるために、「聴く」だけでなく、音楽を聴いて「感じる」瞬間に「模倣する」「覚える」「リズムをたたく」「歌う」などの音楽活動を行う。

同時に、作曲家について、音楽の仕組み(音階、音の役割、和音など)、形式・様式にも簡単に触れ、音楽を総合的に捉える。

(4) 開発したプログラムの実践とその成果

開発した「音楽する耳」を育むプログラムを実践し、有効性について検証を行った。尾道市立向東小学校で実施した授業日は次の通り。

平成 25 年度

【日時】6月28日(金)、9月24日(火)
11月12日(火)、2月19日(水)
【対象】6年1組、6年2組

平成 26 年度

【日時】9月29日(月)、2月16日(月)
【対象】6年1組、6年2組

平成 27 年度

【日時】6月12日(金)
【対象】5年1組、5年2組

【日時】11月20日(金)
【対象】6年1組、6年2組、
5年1組と5年2組の合同クラス

児童を対象としたアンケート結果から次の点が明らかとなった。

・音楽の周期を感じ、拍子をたたくことができるようになった児童は、音楽をじっくり聴くようになることがわかった。

・拍子感を養うことは、音楽全体を捉える際

の基礎となることがわかった。

・「聴く視点」をもとに音楽を聴いている児童が多いことがわかった。最後まで集中して聴く事が可能となる例もみられた。

・「感じる」「模倣する」「覚える」「リズムをたたく」「歌う」などの音楽活動を伴うことにより、より明確に「聴く視点」を認識することが可能となることがわかった。

・「聴く」だけでなく、音楽を「感じる」「模倣する」「覚える」「リズムをたたく」「歌う」などの音楽活動を併せて行うことにより、リズム、音色、フレーズなど、音楽を構成している様々な音楽の要素にも自ら気づく場合がみられることがわかった。

・音楽の鑑賞授業を通して、音楽の聴き方に変化が見られたり、音楽への興味が深まった例も見られた。

(5) コンサートの企画

研究の最終年度に、「ホールでコンサートを聴く」という研究の動機に基づき、実際にコンサートを企画し、尾道市立向東小学校の5、6年生を招き一般にも公開した。

演奏家にも協力を仰ぎ、多くの案を提供してもらいながら、これまで授業で取りあげた変奏曲もプログラムに取り入れた。

コンサート前には、コンサートについての授業を行った。

【日時】平成 27 年 12 月 8 日(火)
開場：13:10
コンサート時間：13:40~14:25

【開場】尾道市民センター
むかいしま文化ホール ころろ

【出演】若狭和良：トロンボーン
垣内 敦：ピアノ

【進行】田中晴子

【プログラム】
G.C. ヴァーゲンザイル(1715-1777):
トロンボーン協奏曲 変ホ長調 第1楽章

A. プライヤー(1870-1942):
スコットランドのつりがね草(変奏曲)

F. シューベルト(1797-1828):
4つの即興曲 Op.142 D935 3. 変ロ長調

G. ビゼー(1838-1875)
〔J.M. デュファイ編曲〕:
カルメナリア(カルメン・メドレー)

アンコール

H. フィルモア (1881-1956):
笑うトロンボーン

コンサート終了後、児童を対象にアンケート調査を行った。アンケートの内容とおおまかな結果は次の通り。

設問1「教室でCDを聴くのと、ホールで生演奏を聴くのでは何か違いがありましたか？」から、児童たちは、教室で聴くのと、ホールで生演奏を聴くのでは、大きな違いがあることを感じていたことがわかった(5年生93.6%、6年生89.9%)。

設問2「心に残った曲を教えてください」については、アンコールで演奏された作品をあげた児童が、5年生も6年生も半数以上であった。その次に、変奏曲をあげた児童が多く見られた。

設問3「今日のようにお話しがあるコンサートにまた、来たいと思いますか？」については、多くの児童が「思う」と答えていたが、「思わない」(5年生3.8%、6年生18.8%)と答えた児童の回答の中には、「お話しを聞くより、音楽を聞きたいからです」という回答も見られた。

設問4「今日のようにテーマを歌ったりするコンサートに、また来たいと思いますか？」についても「思わない」(5年生7.7%、6年生30.4%)と答えた児童の回答の中には、「自分で見つけて聞く方が、楽しいし、興味をもつかもしいからです」という回答や、「歌うのは苦手だから」という回答も見られた。

設問5「今日は、どのようなことに注目して音楽を聴いてみましたか？」については、楽器、変奏曲、どこで曲のイメージが変わるか、拍子に関する回答等、これまでの授業で行った内容が多く含まれていた。

設問6「コンサートの前に、授業で変奏曲について勉強したのはよかったですか？」については、「よかったと思う」と答えた児童は、5年生では94.9%、6年生では92.8%であった。それらの理由は、コンサートを楽しむことができたという回答も多く見られ、コンサートについての事前授業は、音楽を聴く助けとなっていたことがわかった。

設問7「今日の感想を自由に書いてください」については、「またコンサートを聴いてみたい」などの回答も見られた。

全てのアンケート結果については、活動報告書にまとめた。

(6) 現場の教員との研修会

毎回授業後に、現場の教員との交流を図り、音楽鑑賞プログラムの内容や教授法についての研究を進めた。

研究の最終年には、研究成果報告会を行い、これまで実践した音楽の鑑賞授業についての報告を行った。実践対象校であった尾道市立向東小学校の先生方からは、音楽の鑑賞授業の内容と企画したコンサートについてのご意見・ご感想をいただいた。最後に、「子どもたちの感性を豊かにするには」と題して、全員で意見交換を行った。詳細は、活動報告書にまとめた。

(7) 活動報告書の作成。

3年間の活動をまとめた活動報告書を作成した。内容は次の通り。

- ・研究について
- ・研究組織
- ・活動の内容
- ・実践した音楽の鑑賞授業について
- ・トロンボーンとピアノのコンサート
 - 【コンサートの概要】
 - 【コンサートのアンケート調査】
 - 【演奏家の感想】
- ・研究成果報告会
 - 【全体の流れ】
 - 【これまで実践した音楽の鑑賞授業についての報告】
 - 【実践対象校・尾道市立向東小学校へのインタビュー】
 - 【意見交換会・情報交換会】
 - 「子どもたちの感性を豊かにするには」

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

岡田陽子、田中晴子、平田裕子(2015)「音楽基礎教育システム 音楽家の耳 トレーニングの小学校における鑑賞教育への活用に関する研究(2)~尾道市立向東小学校の授業実践例~」、『エリザベト音楽大学紀要』、査読有、第35巻、pp.13-26

岡田陽子、壬生千恵子、田中晴子、平田裕子(2014)「音楽基礎教育システム 音楽家の耳 トレーニングの小学校における鑑賞教育への活用に関する研究(1)~尾道市立向東小学校の授業実践におけるアンケート調査~」、『エリザベト音楽大学紀要』、査読有、第34巻、pp.57-64

〔学会発表〕(計1件)

岡田陽子、田中晴子、「音楽基礎教育システム 音楽家の耳 トレーニングの鑑賞教育への活用 尾道市立向東小学校での事例」、『広島県音楽教育研究協議会主催「第35回広島県音楽教育研究協議会研究発表会」』、平成25年12月12日、広島県広島市立基町高等学校

〔図書〕(計1件)

岡田陽子(2016)、エリザベト音楽大学
音楽家の耳 トレーニング研究所 岡
田陽子編集・発行、『「音楽する耳」を育
むプログラム - 文化施設と学校と 音楽
家の耳 トレーニングの連携 - 平成 25
~ 27 年度 活動報告書』、112

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡田陽子 (OKADA, Yoko)
エリザベト音楽大学・音楽学部・准教授
研究者番号: 70573103

(2) 研究分担者

田中晴子 (TANAKA, Haruko)
エリザベト音楽大学・音楽学部・准教授
研究者番号: 00573081

壬生千恵子 (MIBU, Chieko) 平成 25 年度
エリザベト音楽大学・音楽学部・准教授
研究者番号: 60572964

(3) 連携研究者

平田裕子 (HIRATA, Hiroko)
エリザベト音楽大学・音楽学部・専任講師
研究者番号: 80601252